



Data

監督・製作: ジョン・ファヴロー
出演 (声): ドナルド・グローヴァー
ー/セス・ローゲン/キウエ
テル・イジョフォー/アルフ
レ・ウッドワード/ビリー・ア
イクナー/ジョン・カニ/ジ
ョン・オリバー/ビヨンセ・
ノウルズ=カーター/ジェ
ームズ・アール・ジョーンズ

■ショートコメント■

◆チラシには「新時代にディズニーが贈る、超実写版キング・エンターテイメント」、「この夏、あなたの王国になるーアニメーションも実写も超えた、新時代の映像体験を。」とある。しかし、超実写版とは一体ナニ？

私は、劇団四季による『ライオン・キング』の公演を20年くらい前にはじめて観たが、その時の感動は今でもよく覚えている。そして、本作冒頭の超実写版による、父親ムファサと息子シンバの姿を見たときも一瞬それと同じような感動を。しかし、少しずつ慣れてくるとなるほど、こんなものかと思うだけに・・・。

◆ミュージカルを舞台で観ている時は、役者たちの身体の動きを追い、ナマの声を聞いているから、ストーリーが単純でも十分。しかし、スクリーンで観ていると、ストーリーが単純すぎると、少しバカバカしい感じに……。しかし、本作のストーリーってこんなに単純だったの!? そう思わざるを得ない。

本作導入部から中盤では、サバンナの王国プライドランドの王であるムファサと、それを嫉妬し王位の奪還を狙う弟のスカーの権力闘争の中、好奇心旺盛ながらまだ未熟な息子シンバがまんまとスカーの術中にハマっていく姿が描かれる。その結果、導入部でシンバがハイエナの集団に襲われるくらいは仕方ないが、シンバのへまで父ムファサの命が失われ、シンバが王国から去ってしまうことになる・・・。

◆異国で新たな仲間たちと出会い、成長していくシンバ。他方、勝手に王位をスカーに継承され、スカーとハイエナ連合軍によって暗黒の国になってしまったプライドランド。

本作中盤はそんな展開の中で、シンバの幼なじみだったナラが応援を求めて出国し、そ

ここで偶然シンバと再会する展開になっていく。もともと、そこで「あなたは王なのよ」と言われても、シンバはそれに一向に答えようとせず、「僕はここで自由に生きていくんだ」と言うばかりだったから、ナラは「失望したわ」と言い残して去ってしまったが・・・。

◆そんなシンバの決心を一転させたものは、一体ナニ？それが本作の最大のポイントだ。本作で、元気だった父王ムファサがシンバに教えた最大のテーマは“自分が生まれてきた意味は何か”ということと、「サークル・オブ・ライフ」つまり、“生と死を繰り返して世代を受け継ぐ”ということだが、幼い時のシンバはそれを十分理解できなかったらしい。しかし、今は・・・。

◆本作ラストは、シンバがプライドランドに戻ってきた後のスカーとの最終決戦になる。私はそこでシンバの力と権威がスカーを圧倒するものと思っていたが、意外にも「父王が死んだのは誰のせいだ？」と迫るスカーに対してシンバがしどろもどろになった上、結局「自分のせいだ」と認めたことによって、形勢は逆転。スカーによって崖っぷちに追い詰められたシンバは、あわや父王と同じ運命に？

そう思われたが、そこでスカーが要らざる一言を吐いたのが運の尽き。そこではじめて、自分がスカーにハメられていたことを知ったシンバは俄然反撃し、以降は予定調和通りの展開に。なるほど、なるほど。これはこれでわかるのだが、少し単純過ぎるのでは・・・？

◆てなわけで、十分楽しめたものの、納得度と感動度の点で、本作はイマイチ・・・。

2019（令和元）年8月22日記